釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）12月８日発行　VOL 36

信頼を築く

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

１日（月）から本日まで、面談期間になっています。３学年は三者面談に臨んでいます。この面談で中学校卒業後の進路について決定しなければならないので、保護者とともに教室に入る際の表情には緊張感が窺えます。１・２学年は学級担任との二者面談（教育相談）に臨んでいます。学習面や生活面についての成果と課題、学級の課題に対する解決策、１年後に迫った進路の方向性など、面談内容は多岐にわたります。どの学年とも面談時間は15分間から20分間と短いですが、生徒たちにとって有意義な時間になればと思います。そして、２学年については、毎年恒例となりましたが、二者面談終了後、校長との面談に臨んでいます。「THE MEETING」と称されていますが、次年度の「目指す生徒の姿（重点教育目標）」の設定に向けて、「北中学校のよいところは何か」、「北中学校でどんな中学生になりたいか」、「そのために必要な力（気持ち、姿勢等）は何か」について校長と協議します。どの生徒も「私は北中学校で〇〇な生徒になりたい、その理由は△△だからです」と明確に回答します。既に「私たちが次年度の北中学校の創り手になる」という自覚を全面に出して協議に臨んでくれています。頼もしい限りです。

さて、次期学習指導要領においても、「主体的な学び」という言葉は重視されるようです。今回は「主体的な学びを通した生徒が主語の学校づくり」について保護者や地域の皆さんと共有したいと思います。

今から５年前、教育行政に勤務した最後の年でした。ちょうど今ぐらいの時期にある中学校を訪問しました。そして、数学の授業を参観しました。教室に入った瞬間に、今までに見たことのない光景が目に飛び込んできました。教室の後ろに長机があり、その上に北海道で使用されている複数の会社の教科書が置かれていました。教科書と一緒に紙も置かれていて、そこには「他の学校でどのような勉強をしているのか、参考にしたい人はどうぞ」と記されていました。また、教卓には「教科書の指導書」と「中学校学習指導要領解説数学編」が置かれていました。この授業を担当する教師は「先生は授業を考えるときにこれらの本を参考にしています。みんなも使いたかったら使っていいですよ」と生徒に伝えていました。手の内を全て明らかにするという姿勢に感動しました。

教室の様子は、当該の教師が単元のねらいや評価規準（授業の最後にこうなってほしいという姿）を説明した後は、全てを生徒に委ねます。全員が勝手に取り組んでいるという感じですが、全員が数学のその単元を学習しています。授業を参観しながら何人かの生徒に「こういう授業は楽しいですか？」と尋ねると、一人の生徒が「友達が自分なら考えないことを考えていて、それが面白い」と答えてくれました。生徒たちが学びに自走する姿を目の当たりにしました。

「生徒が主語の学校」が求められています。これからの時代を生きるのは、生徒自身なので、生徒を信じて、委ねるもの、任せることを本気で増やしていく必要があります。生徒が「育つ」ことをしっかり考えるのは、大人の務めです。その際、生徒と大人の間に信頼がなければなりません。信頼を築くこともまた大人の務めだと考えます。